号外

昭和56年2月11日

都市問題懇談会
提言特集号

市報 にいがた

市の人口

	前月比
人口	451,428 (+472)
男	221,524 (+239)
女	229,904 (+233)
世帯数	142,787 (+ 99)

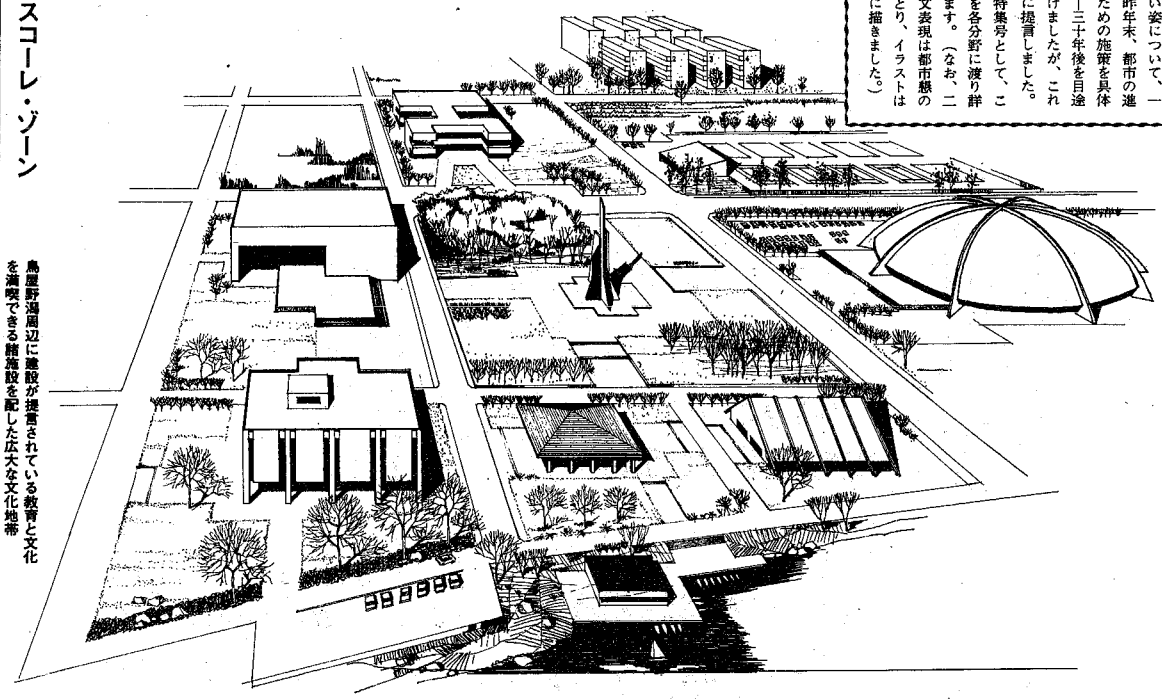
55年12月末現在

発行日 毎週日曜日
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話代表(28)1000
編集人 高橋甲子
(担当市民企画部広報課)
印刷所 (㈱第一印刷所

"30年後の新潟"望まれる姿

新潟市都市問題懇談会会長北村四郎＝前新大学長）は、新潟市の望ましい姿について、一年二ヵ月に及ぶ検討を終え、昨年末、都市の進むべき方向とそれを実現するための施策を具体的内容とする『あすの新潟――三十年後を目途とする将来構想』をまとめ上げましたが、これを先月九日、正式に川上市長に提言しました。

今回は、特集号として、この将来構想を各分野に渡り詳細に紹介します。（なお、二～四面の本文表現は都市懇の提言の形をとり、イラストは提言をもとに描きました。）



スコーレ・ゾーン

鳥屋野潟周辺に建設が提言されている教育と文化を満喫できる諸施設を配した広大な文化地帯

住みよい社会など三つの道めざす

提言総論

水と緑、活気ある市民の街が基本

『あすの新潟』と題して提言された本構想は、新潟市の現状と都市づくりの理念に基づき、30年後の新潟市の最も望ましい姿を、豊かな庶民性と水と緑にあふれた「美しく活気のある市民の街」としてとらえ、これを基本に、住みよい地域社会、活気ある産業都市、国際的文化の中枢都市を建設しようと提案しています。

この構想の樹立にあたっては、人口規模の予測と土地利用のあり方がそもそも根底に置かれています。そして、これをもとに、前述の都市建設を実現しようと、具体的施策・内容が詳細多岐に渡り検討されています。

住みよい地域社会づくりにあっては、水と緑にあふれた自然環境・公園都市の創造、交通体系、都市開発・再開発等の見直し――等による総合的環境整備の必要があるとしています。

活気ある産業都市として特色づけてゆくためには、新潟市がもつ交通機能の集積性を生かした商業の発展、また諸都市との経済的交流を密にしながらも新潟の地域性を生かした地場産業の育成、農・水産物の食品加工コンビナートの建設――など、各産業分野に渡り施策をかかげています。

さらに、日本海側における国際的文化の中枢都市づくりにおいては、新潟市民の文化的土壌である庶民性を大切にしながらも、国際性、人間性豊かな新しい市民の文化創造をめざし、特に、市民の精神的文化を表徴するものとして教育、文化、余暇を満喫できる広大な文化地帯の設定を企図しています。

提言までの軌跡

54・10　懇談会設立初会合。運営方針を討議
54・11　今後検討すべき問題の提出
54・12　将来像について発表
55・2　中間報告素案討議
55・3　五分科会に分れ、専門討議することを決定
55・4　中間報告を市長に提出する
55・5　分科会テーマ討議（都市環境、交通体系）
55・6　分科会テーマ討議（交通体系・都市と農村の交流）
55・7　分科会テーマ討議（教育と文化、産業構造と流通）
55・8　東港、信濃川、鳥屋野について検討
55・10　提言案の討議
この間編集会議で各項目を調整
55・12　最終会議で提言案まとめる
56・1　市長に提言

私は去る一月九日「あすの新潟―三十年後を目途とする新潟市に関する提言」を都市問題懇談会会長北村先生（前新潟大学学長）から受けとりました。

私が北村先生はじめ十六人の方々に新潟市の将来像を画いていただくため前記懇談会を組織してから一年二ヵ月、それぞれの方々が忙がしいお仕事をおもちにもかかわらず、実に熱心な論議を積み重ねてくれました。

一般的に役所の設置する審議会などは役所側のつくった案について当否の意見を述べるというやり方が多いのですが、それも一つの方法ではありますが、この種の課題は各委員の豊富な知識経験や新しい発想を中心に策定していただくことが必要だと考えましたので、私は懇談会の初会合で㈠適当な人口規模㈡土地利用のあり方㈢分担、そして㈣新潟市の都市としてのイメージ、性格の項目のみを示し中味は懇談会における論議できめてくれるよう依頼したわけです。

市民の合意できる将来像へ向け努力

私は市長就任以来、この新潟の"まちづくり"は市民と行政が一体となってすすめることを基本としてきましたが、そのためには新潟の将来の姿についても共通した認識が必要と考えたわけです。たとえば極端に言って新潟市を工業都市として発展させる、いや、むしろ商業中心だと意見が分れる。これでは困るわけで、市民の多くが合意できる将来像があり、それをめざしていますから努力をすることとしたい、私はそのことを考えたわけです。懇談会は私のこの要請に応えてくれました。ありがたく思います。もちろんこの提言には、これらさらに具体的に検討を加えなければならないものが多くありますから、これらについては今後新たにとり組むことにいたしますが、同時にいまからその方向で着手できるものもあるわけですからできるだけ努力をしたいと考えます。

市民のみなさんからもこの提言についてのご理解をいただくようお願いいたします。

新潟市長　川上紀八郎